

異文化交流実践講座 (Cross-Cultural Distance Learning: CCDL) の学習効果調査：学習者の動機を高める授業になっているか？

中野 美知子† 小泉 大城‡ 平澤 茂一* 近藤 悠介**

† 早稲田大学遠隔教育センター ‡ サイバー大学 IT 総合学部 * 早稲田大学理工学研究所

** 早稲田大学オープン教育センター

1 はじめに

早稲田大学では、遠隔教育センターが中心となって、テレビ会議システム、LMS 上の BBS、オーラル・チャットを活用した授業を展開しており、毎年 3,600 名の早稲田の学生と海外協定校の学生 4,500 名が参加している。この報告では、交流授業が英語学習者の学習動機を高めているかを調査している。この 2012 年度前期の調査では 333 人の早稲田の学生が動機調査に参加した。学習者は授業に興味を持つと自律的に学習していくことが知られている [1][2]。自律性の発展は、無動機 (Amotivation) → 外的な要因で学習を強いられている (Extrinsic Motivation) → 自律した学習者として、達成感や交流により知識をえることに喜びを見出している (Intrinsic Motivation) という概念で分析され、参加者の授業形態と動機付けの関係を因子分析を用いて報告する。

2 調査方法

調査にあたっては、これまでに実施してきた方法 [3][4][5] と同様に、動機づけ理論である Self-Determination Theory (SDT) [1][2] の理論的枠組み及び調査方法 (質問紙法) に依ることとした。SDT では、内発的動機づけ (Intrinsic Motivation)、外発的動機づけ (Extrinsic Motivation)、無動機 (Amotivation)、と呼ばれる 3 種の動機づけを概念化している。それぞれの動機づけタイプは互いに密接に関連しあっており、付随する自律性の度合いによって連続体 (Autonomy Continuum) になすよう定義されている。

これまでの調査で使用した 24 の質問項目に若干の修正を加えて使用することとした。これら 24 項目は、Language Learning Orientations Scale (LLOS) や、その原案になった考案の Academic Motivation Scale (AMS)、また Park の動機づけ測定尺度 [6] をもとに作成したものであり、それぞれの項目が CCDL CMC 活動に参加する「理由」となるように構成されている。また、LLOS や AMS と同様に以下 7 つの下位尺度に分類することができる (括弧内は、それぞれの略称と項目数)。

- Intrinsic Motivation for Knowledge (IMK: 3 items)

- Intrinsic Motivation for Accomplishment (IMA: 3 items)
- Intrinsic Motivation for Stimulation (IMS: 3 items)
- Extrinsic Motivation-Identified Regulation (EMID: 4 items)
- Extrinsic Motivation-Introjected Regulation (EM-INTRO: 4 items)
- Extrinsic Motivation-External Regulation (EMEX: 4 items)
- Amotivation (AMOT: 3 items)

回答方法としては 5 件法を採用し、それぞれの質問項目にあげられている「CMC 活動への参加理由」が、各自が抱く理由とどの程度一致するかについて、1 (全くあてはまらない) から 5 (完全にあてはまる) までのうちで該当する数字に丸をつけるよう指示を与えた。

3 因子分析結果 (主因子法)

信頼係数のクロンバッハの α は 0.785 で、5 因子が抽出された。各項目が削除された場合のクロンバッハの α は 0.762 から 0.812 であった。

因子は次のように解釈できた。

因子 1 内発的動機 (Intrinsic Motivation)+ Positive Extrinsic Motivation

チャット交流に積極的に参加し、やり遂げたという達成感 (IMA) を感じ、英語が好き (IMS) という傾向も見られる。

因子 2 知識を得ようとし (IMK)、英語も好む (IMS) し、先生の教育意図を理解している (EMID が多い)

因子 3 無動機 (Amotivation)

因子 4 外発的動機づけ (Extrinsic Motivation)

因子 5 部分的に内在化が進んだ状態の外発的動機 (Introjected Extrinsic Motivation)

それぞれの学習者の因子得点を計算し、選択科目として CCDL コースを選択しているクラスと必修科目で時間外にチャットをしているクラスを比較した。図 1 がその結果を示している。図 1 で分かるように、選択科目の方が異文化交流に積極的である。動機の高い因子 1 と因子 2 の得点が高く、無動機や外発的な動機が負の値になっている。一方、必修科目は平均値に近い。

24 項目の中には床効果を示すものがあった。床効果 (学生の評点が 1, 2 に集中している) を示していたものは無動機 3 項目と外発的な動機 3 項目であった。アンケートは学生自身の気持ちを反映していると解釈できるので、消極的な項目を分析削除ができたことは、積極的なチャット交流ができてきていることの証拠となると考えられる。

On the Learning Effect of Cross-Cultural Distance Learning (CCDL): Do the classes raise the students' motivation?

† Michiko Nakano is with the Distance Learning Center (DLC), Waseda University

‡ Daiki Koizumi is with the Faculty of Information Technology and Business, Cyber University

* Shigeichi Hirasawa is with the Research Institute of Science and Engineering, Waseda University

** Yusuke Kondo is with the Open Education Center, Waseda University

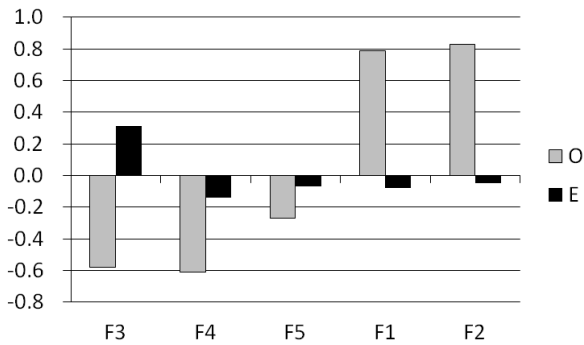


図 1: 選択科目 (E) と必修科目 (O) の因子得点比較

このような消極的でやる気のない気持ちが削除できたことは意味がある。学生は社会の雰囲気敏感で、円高で貿易もままならない経済状態に対して、経済が好調に進展している中国や韓国、台湾の学生と交流することに意義をみだしているのではないだろうか？

18 項目を因子分析し、3 因子を得た。信頼係数は改善し、0.91 となり、各項目を除去した信頼係数も 0.899~0.918 となった。3 因子はの解釈は次のようになる。

因子 1 チャット交流を通して、知識を得ようとし (Intrinsic Motivation for Knowledge:IMK), 英語も好む (Intrinsic Motivation for Stimulation:IMS) し、先生の教育意図を理解している (Extrinsic Motivation Identified:EMID)。

因子 2 チャット交流に達成感 (Intrinsic Motivation for Accomplishment: IMA) を感じ、内的な動機づけが確立しており、英語を話す感覚も好きである (Intrinsic Motivation for Simulation:IMS)。ここで注目したいのは EMEX4 と EMEX5 である。この二つの項目は、自分の内面から湧き出る動機ではなく、外的な要因とされてきた。しかし、項目の内容をみると、経済不安を抱える日本社会の中で、自分の将来に結び付くことが理解され、実感となっているために、Intrinsic Motivation の下位項目になっていると解釈できる。

因子 3 外的要因ではあるが、自分の意識に反映されている動機 (Extrinsic Motivation Introjected: EM-INTRO) と成績のことを考える打算的な要因。

授業形態別の因子得点を図 2 に示す。Global Communication や Global Literacy の授業では、打算的な因子 3 が負の値で、動機の高い他の因子では、この二つの科目が他の科目に比べ優位であり、異文化交流の授業に適した授業内容があるということを示唆している。

4 まとめ

選択科目と必須科目を比較すると、学生が進んで選択している授業の方が圧倒的に学習動機が高い。今回の調査では、無動機や外発的な要因に学生たちが侵されていないことが示唆された。異文化交流に以前より、積極性がましていることが推察された。さらに、異文化交流を授業の中心テーマに置いている授業の方が学生の学習動機を高めている。

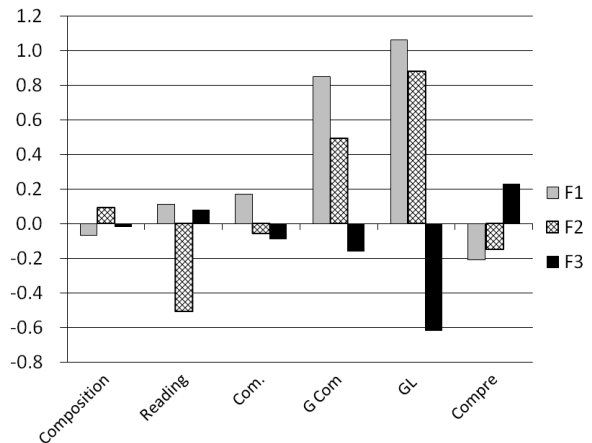


図 2: 授業形態別の平均因子得点の比較

謝辞

データの収集にあたり、遠隔教育センターの森裕樹氏、早稲田総研インターナショナルの CCDL サポート室のご協力に厚く御礼申し上げます。本研究の一部は日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 24320109 の助成による。

参考文献

- [1] Deci, E. L., and Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.
- [2] Ryan, R. M., and Deci, E. L. (2000a). "Intrinsic and extrinsic motivations: Classic definitions and new directions." *Contemporary Educational Psychology*, 25, pp. 54-67.
- [3] Nakano, M. and Yoshida, S. (2008). "A Pilot Study: Exploring a Relationship between Four Kinds of Motivation and Self-regulations for Second Language Learning among Japanese University Students in Cross-Cultural Distance Learning Contexts." *Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics*, pp. 91-94.
- [4] 吉田諭史・中野美知子 (2009). 学習動機の学習者内観調査 2008 年度調査結果, 『全国調査から見る ICT 教育 - 実践・評価・理論 2008 年度活動報告書』 大学英語教育学会 (JACET) ICT 調査研究特別委員会, pp. 59-97.
- [5] 吉田諭史・中野美知子 (2011). CCDL CMC 交流における英語学習動機: 2010 年度調査結果. 『2010 年度 ICT 授業実践報告書』, 大学英語教育学会 (JACET) ICT 調査研究特別委員会.
- [6] Park, H. S. (2006). *Motivation in a foreign language context: The effect of gender issues in a Korean social and educational context*. Unpublished Doctorial Dissertation, Korea University.